

漢検

平成30年度 (2018年度) 第1回 日本漢字能力検定

標準解答(こたえ)

検定日 平成30年6月17日 (公財)日本漢字能力検定協会

(一) つぎの——線の漢字の読みがなを

(30) 1×30

- 1 木の葉が夜つゆにぬれている。
2 高原に美しい花がさいていた。
3 詩を読んで感想を話し合った。
4 三年一組の教室は二階にある。
5 マットを体育そう庫にしまった。
6 多くの人の前で話すのが苦手だ。
7 ローマ字で書いてある短い文を読む。
8 病気のため三日間、学校を休んだ。
9 はん画は思いどおりに仕上がった。
10 自分の考えを文章に書き表す。
11 リレーに出場する選手が決定した。
12 去年の夏から犬を飼っている。
13 次号のかべ新聞について相談する。
14 森で大きなどんぐりを拾った。
15 ねる前に部屋の電気を消す。
16 細い筆で名前をていねいに書く。
17 注文していた本が家にとどいた。
18 子ねこの命が助かってほっとした。
19 サッカー教室の申しこみをする。
20 世界地図を見て国名をたしかめた。

遊 業 祭 悪 局
6 11 6 7 3
駅 港 緑 第 庫
14 12 14 11 10

(二) つぎの漢字の太いところは、何番めに書きますか。○の中に数字を書きなさい。(10) 1×10

- 21 母は空港まで父をむかえに行った。
22 家族のたん生日を手帳に記入する。
23 虫歯のちりようは今日で終わりだ。
24 タンプリンを軽くたたく。
25 ソケットに豆電球をさしこむ。
26 ゆるやかな坂道を走って上った。
27 駅から南の方向に歩くと海に出る。
28 オリンピックで銀メダルを取った。
29 湖の上空に花火が打ち上げられた。
30 電車はカーブで速度を落とした。

(三) ()の中に漢字を書いて、上とはんたいのいみのことばにしなさい。(10) 2×5

- さんせい — 反(対)
止まる — (動)く
あさい — (深)い
下山 — (登)山
生まれる — (死)ぬ

(四) おなじなかまの漢字を□の中に書きなさい。(20) 2×10

うかんむり (宀) 客 船 ・ 実 行 力
しよくへん (食) 飲 む ・ 図 書 館
こぎとへん (冫) 太 陽 ・ 入 院
こころ (心) 急 用 ・ た め 息
しんにょう (辶) 返 事 ・ 行 進 曲

——うらへつづく——

8級 A

○この答えを見て、書けなかったところはどこか、まちがったところはどこか、しっかりたしかめてください。

○書けなかった字や、まちがったところは、そのままにしないで、すぐに練習をして正しくおぼえましょう。

○あなたのせいせきは、40日ほどあとにお知らせします。
受かった人には合かくしょうしょを送ります。
楽しみに待っていてください。
受からなかった人にもお知らせします。

△合かくしているかどうかなどのお問い合わせにはお答えできません。

〔不許複製〕

おわり

(五) つぎの()の中に漢字を書きなさい。(20) 2×10

みんなの(意)見て学級の係を決める。
図書(委)員会のメンバーがかわった。
理科室に(葉)品の戸だなが二つある。
学芸会の(役)をした。
高校生の兄は母より(身)長が高い。
学校だよりに遠足の写(真)がのった。
7(有)名な昔話を紙しばいにする。
休み時間は外に出て自(由)に遊んだ。
せみの一生について(研)究する。
町の中央で国道と(県)道が交わる。

(六) つぎの—線のカタカナを○の中の漢字と(10) 2×5
おくりがな(ひらがな)で□の中に書きなさい。

1(守)母とのやくそくをマモル。 大きい
2(負)うてずもうで兄をマカス。
3(集)みつばちが花のみつをアツメル。
4(平)川原でヒラタイ石を見つけた。
5(流)空をナガレル雲の形がかわる。 流れる

(七) つぎの—線の漢字の読みがなを(10) 1×10
—線の右に書きなさい。

合かくの知らせを聞いて安心する。
デパートの安売りは明日で終わる。
3屋上にテレビのアンテナが立っている。
寺の屋根に数羽のはとがとんできた。
5校内放送で大事なれんらくがあった。
旅行に行く姉をげんかんで見送る。
図かんで高山植物について調べる。
花だんにばらのなえ木を植えた。
9始業式で校歌を歌った。
兄は朝早く起きて勉強を始めた。

(八) つぎの□の中に漢字を書きなさい。(40) 2×20

1 理科の時間に日なたと日かげの
地(面)の(温)度をはかった。
2 友だちと校(庭)の鉄ぼうで
さか上がりの(練)習をする。

3 紙ねん土で作った小さな(皿)に

絵の(具)で花もようをかいた。
4 中山君は一学(期)が終わると
8(転)校するそうだ。
5 遠足のバスは(予)定より
五分おくれて出(発)した。
6 夕ごはんを食べてから、算数の
11(宿)題をした。
7 金魚の(泳)ぎ(様)子を
15(畑)にさいているへちまの花を
かんさつする。

9 父は少年時(代)から医(者)に
なるのがゆめだったそうだ。
16(指)に花ふんがついた。
さわると、

10 新かん線で九(州)へ行くとき、
七号車に(乗)った。